

名 称	群馬県立二葉特別支援学校 P T A
会 員 数	9 4 人（令和 6 年 5 月 1 日現在）
組 織 ・ 運 営	1 役員会（年 4 回）は、本部役員、学年委員、教員の代表による。 - 本部役員は、会長 1 名、副会長 2 名、書記 1 名、会計 1 名、顧問兼会計監査 1 名、専門部 6 名（広報部長 1 名、広報副部長 1 名、奉仕部長 1 名、奉仕副部長 1 名、進路部長 1 名、進路副部長 1 名）任期は 1 年である。 - 学年委員は、小中学部各学年 1 ～ 2 名、中学部 2 年は本部役員を担うため特に設けない。本部役員の仕事に協力したり、学年で話し合う際の中心的役割を担ったりする。 2 専門部は、全保護者（会長、副会長、書記、会計、顧問兼会計監査 以外）が希望する部に所属する。 - 奉仕部：ベルマークの回収・集計、ボール磨き作業を年 3 回実施 - 広報部：PTA 新聞「ふたば」年 2 回発行 - 進路部：研修と施設見学を計画・実施 3 その他（本部役員が中心となる活動等） - PTA 有価物回収（年 3 回） PTA 主催行事（年 1 回） 等
主 な 活 動	1 わくわく感を大切にした行事 ① 開校 65 周年記念行事※子どものためのスター事業（その 1） 「タニケンバンド」（NHK、E テレ出演の谷本さん率いるバンド）によるコンサートを児童生徒と保護者がともに楽しんだ。 - 体験の意義の大きさを実感し、「子どもにわくわく感をもたせたい」という思いが膨らんだ。 ② PTA 主催行事「わくわくお楽しみ会～星まつり～」 ※子どものためのスター事業（その 2） 「一般社団法人 星つむぎの村（山梨県）」に「出張プラネタリウム」を依頼し、PTA 役員が「ポップコーン作り体験」「綿あめ作り体験」を行った。 - 児童生徒は直径 7m のドームに入り、友だちと並んで星空を眺めた。アナウンスのやさしい語りと星と宇宙の迫力ある映像に、児童生徒は歓声をあげ、目を輝かせた。 「ポップコーンと綿あめ体験」では、「子どもたちにどんな体験をさせたいか」を事前に PTA 役員と教員で意見交換した。子どもたちは五感を働かせて楽しんだ。（写真①、②）  ポップコーンの味をつける（写真①）  できたて綿あめを触る（写真②）

2 PTA 施設見学

- ・ アンケートで見学したい施設を把握し、3カ所の施設（飲食店「はッピーすまいる。（前橋市）」、生活介護「iba-sho（伊勢崎市）」社会福祉法人「はーとわーく」（前橋市））に協力を得た。
- ・ 店内と自宅を Zoom でつなぎ、遠隔操作ロボット「オリヒメ」を操作して飲食店で働く様子を見学した。仕事をする上での心構え（整容や言葉遣い、店主との関係等）を直接聞くことができた。
- ・ 自分の好きなことを自分のペースを大切に生活する施設、「支援が必要な方やそのご家族の心の幸せを追求する」を理念とした多機能施設では、ニーズに対応できるような工夫がなされていた。
- ・ 「将来我が子にこんな生活を送ってほしい」「もしも自分が介護できなくなったら」等、夢だけでなく厳しい現実も想定しながら将来を具体的にイメージする上で施設見学は大きな意味をもつ。

3 保護者座談会「みんなどうしてる!？」

- ・ 「コロナ禍以降、保護者同士のつながりが薄くなっている」「特別な講師による研修会もよいが、まずは保護者同士で気軽におしゃべりしたい」との声があがり、保護者同士の「座談会」を計画した。入浴のこと、福祉サービスのこと、家のリフォームのことなど、活発な情報交換を行った。介護用リフトの体験も行った。
- ・ 日頃交流の少ない保護者同士でも、困り感は共通している部分が多く、すぐに打ち解けて話し始めることができた。話すうちに表情が明るくなる方も多く、「すぐに解決策が見つからなくても、話を聞いてもらうだけで気持ちが軽くなる」との感想もあった。学部や学年の垣根を越えて有意義な交流の機会となった。（写真③）



活発な情報交換（写真③）



「星の王子さまワークショップ(写真④)

4 ミュージカル「星の王子さま」開催の後押し

※子どものためのスター事業（その3）

- ・ R6年度は、一年間を通して「星」をテーマにPTA活動を行っている。R7. 2月にはミュージカル「星の王子さま」（東京演劇集団風）を本校体育館にて開催予定である。観劇を希望する保護者をPTA役員がサポートするとともに、ステージに上がって、リアルタイムで楽しむ子どもを応援していく。（写真④）

名 称	群馬県立あさひ特別支援学校 P T A
会 員 数	1 6 6 人（令和 6 年 5 月 1 日現在）
組 織 ・ 運 営	【組織】全家庭が PTA に入会し、本部役員以外の保護者全員が専門部に所属している。 (1) 本部役員（P 9 名/T 6 名） ・会長 ・副会長 ・書記 ・会計 ・会計監査 ・顧問 (2) 専門部員 ・広報部員 ・研修部員 ・文化部員 (3) 実行委員 ・専門部部長・副部長 ・学部代表・副代表 (4) 拡大実行委員 ・本部役員、実行委員、校長、教頭、事務長、渉外部長（議題により、小学部・中学部・高等部の各主事が参加） (5) 推薦委員（本部役員・専門部部長・学部代表・副代表） 【運営】 (1) 本部主催会議 ・PTA 総会（書面開催、年 2 回） ・本部役員会（年 3 回） ・拡大実行委員会（年 1 回）・推薦委員会（年 1 回） (2) 専門部会（年 1 回～適時） ・広報部会：PTA 新聞の作成や発送事務 ・研修部会：事業所見学会、福祉・進路に関する講演会の企画運営 ・文化部会：講師を招いた文化的行事や地域の施設を活用した懇親会の企画運営 (3) 学部懇談会（年 1 回～適時） 学部運営への理解・協力に向けて学部代表が協力
主 な 活 動	(1) 資源回収を通じた地域団体との連携 ・PTA として桐生市再生資源集団回収事業に登録している。地域の回収業者と連携して年間 3 回実施している集団回収によって、資源の活用・ごみの減量を目指している。桐生市より再生資源の集団回収活動を実施している本 PTA に奨励金が交付されている。桐生市の勧めるスチール缶リサイクル協会「集団回収支援事業」にも応募し、継続した 3 年間の実績を認められ、「感謝状」をいただいた。 保護者・近隣住民の通行の妨げにならぬよう、回収車が校内に進入する時刻や資源を搬入する時刻をあらかじめ知らせ、安全面への配慮をしている。資源運搬や回収車へ

主 な 活 動

の積込みの際には、会員同士声をかけ合い、協力しながら取り組んでいる。今後も資源回収を続け、資源の活用・ごみの減量や、地域住民のコミュニケーションの場の提供を目指したい。

<資源回収の様子>



<アルミ缶とスチール缶の分別> <雑誌や新聞の積込み作業>

(2) 施設見学会や進路・福祉サービスに関する勉強会

- ・PTA 研修部では、施設見学会を企画・開催している。福祉サービス事業所の利用者やスタッフ、設備や室内の様子などを見学後、質疑応答により、活動内容、送迎、支援体制について詳しく知ることができる。また、福祉サービス事業所の方や市福祉課職員、相談支援専門員などを講師に招き、福祉サービスなどのほか、保護者の希望に合わせた内容についての講演を企画・開催している。講師選択や施設訪問先は、保護者の希望をもとに、進路指導部や地域支援部とも連携して決定している。保護者が抱える将来への漠然とした不安の解消や、様々な福祉サービスへの理解を深め、児童生徒の進路選択のための情報収集に役立てている。

<施設見学会>



共生型デイサービス施設
(生活介護) 見学の様子

<勉強会>



相談支援専門員を講師に招き
福祉サービスや福祉制度に関する講義・質疑応答の様子